

令和元年度篠原児童館目標及び報告

篠 原 児 童 館

	目 標 (P)		実 践 (D)	気づき・反省 (C)	次への期待 (A)
サービスの質の向上	子育て支援の強化	(在宅育成事業) 親子館事業の充実	しのはらママズ' ネット活動を年間 7 回実施	計画では 5 回実施としていたが、講師の好意もあり 7 回実施できた。出前児童館では地域の公園で児童館を知ってもらえる機会となり、その後利用者となってもらえた。	S カフェ実施で利用者からの認知度が上がり、親業の話し合いの場を増やしてほしいと要望があったため、次年度には年間予定を組む際には、検討する。
			親子館事業の充実 (夏休み親子の居場所づくり、こどものおべんとうひろば)	夏休みの親子の居場所作りでは前年度より 3 回増やした事により来館者数が前年度より 5 6 組、2 1 2 名増となり、保護者から好評を得ることとなる。	好評だった事もあり、1 週間に 1 回の実施を続けていきたい。また、外部講師を招いての行事も検討する。
			おべんとうひろばの時間の充実	年間 1,063 組の参加があり、おべんとうひろばに、毎日お弁当を持って 来館してくる親子の姿も見られ、日常生活の中に児童館で過ごす時間ができくると、保護者が子供の生活のリズムを整える事の大切さや、子育ての孤立解消にも役立っていると感じる。	継続して行って来たおべんとうひろばは、夏休みでも実施したところ、115 組の親子の参加がありました。子育ての環境として、児童館も役だっていると思い、来年度も継続して実施していきます。
	児童育成の拡充	(こども育成事業) 季節行事の充実	・プレゼント工作・七夕コンサート・なつまつり・クリスマス会等の実施 ・外部講師の活用 (合計 35 回実施)	外部講師の活用では、接骨院とコラボをして、母親の健康維持を目的に実施をしました。母親が産後の体形維持の体操を学び、児童館に来館しない時でも、毎日自宅でもできるのは、母親から好評を得る事ができた。	児童館に来館した時だけで終わらず、毎日出来る体操等を学んだ事で、自分もやってみようと言う意識が持てたとの声があり、児童館職員だけではなく、外部から講師を招いての行事をこれからも活用していきたいと思う。

	目 標 (P)		実 践 (D)	気づき・反省 (C)	次への期待 (A)
サービスの質の向上	児童育成の拡充	(子育て家庭支援事業) (ふれあい交流事業) 放課後児童クラブ事業の充実	こどもエコクラブへ積極的に参加をし、児童と地域のエコ活動の協働作業を強化する。	兵庫県ユース eco フォーラムに参加をし、これまでのエコ活動の報告会をしました。 代表の小学生がフォーラムの中で自分たちの思いを発表できた事は、児童達の自信にもなり、eco活動の意欲にもつながると思う。	高学年がエコ活動を続けている事で、低学年の児童にもecoについての意識が高まってきたと思います。次年度も継続をして取り組んでいきます。
地域との共生	地域との連携を図る	(地域連携推進事業) ボランティアの育成と社会参加の機会の提供	クラブやタイムに年間を通して託児や補助などでも参加	託児事業として親子館事業でのボランティア活動を中心として行っており、活動の幅を広げていける様に活躍場を増やす。	社会資源としてボランティアの活用を進め、積極的な活動となるように事前に話し合いを持つ。
		(子育てコミュニティー育成事業) 日曜開放委員と共に地域の親子を対象に行事を行う	親子料理教室や寒もちつき等年8回の行事を実施	もち作りでは、中学生のボランティアの参加があり、活気があったように感じます。	開放委員の方が中心となった活動は来年度も続けていきたいと思っています。
		PTA と一緒に下校時の見守り活動の実施	小学校の PTA と一緒に年間6回の下校時の見守り活動の実施	児童館の職員と地域のボランティアは毎回参加があったがPTA の参加が見受けられなかったので、参加を協議する。	PTA と児童館と地域が児童の安全を見守れるように、機会を見つけて協議していく。
	年間利用数	学童保育クラブ年間利用者予定数(23,000名) 自由来館年間予定数(5,500名)の受け入れをする	学童クラブ 10,521 名 自由来館 22,925 名 受け入れがあった。	3月にはコロナウイルス感染症予防の為小学校が臨時休校となった為一般来館が減り、学童利用も休会する児童が増えたので3月の利用者が減る事となった。	自由来館が増えたのは、おべんとうひろばの充実と、夏休みにも親子の居場所作りで、夏休みにも自由来館者が増えた事が要因の一つです。次年度にも実施していきます。